

- 送配電網に接続して「蓄電池単体」で系統(送配電網)から電気を受け取り、「蓄電」を行い貯めた電気を「放電」して系統(送配電網)を通じて売電する事業です。
- 主に以下の3つの電力市場を駆使して収益を得ます。
 - ① 容量市場(長期脱炭素オークションを含む) ② 需給調整市場 ③ 卸電力市場(相対取引を含む)

◆ 取組概要

- 取組背景
- 主に再生可能エネルギーの導入拡大に伴う出力変動の調整と、電力系統の安定化を目的としています。
 - 蓄電所事業を行うことで再生可能エネルギーの導入拡大に寄与し、社会課題である脱炭素化に貢献します。

市場概要 ① 容量市場 or 長期脱炭素オークション

将来の電力供給力をオークション形式で取引する電力市場です。

需要と供給の調整を目的としており、発電能力の確保や安定供給を促進する仕組みです。

- ・ 電力広域的運営推進機関(広域機関)が、4年後の最大需要を試算して「4年後の電力の供給力」を算定します。
- ・ 供給力算定時に気象、災害リスクを考慮し調達すべき電力の目標容量を設定します。
- ・ 発電事業者が売り手となり、小売電気事業者が買い手となって、市場メカニズムで決まった額を支払います。費用はオークション方式で決められkW単位での単価で応札されます。

② 需給調整市場

送配電事業者が電力の需要と供給のバランスを取る際に必要な「調整力」を調達するための市場です。

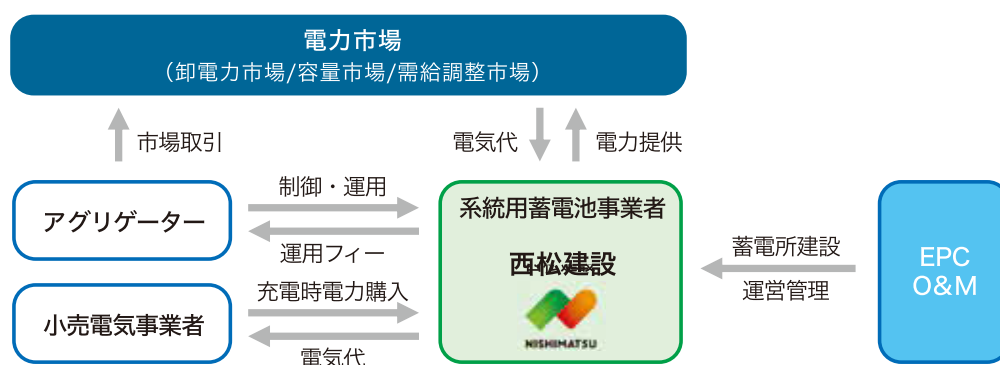
調整力とは、出力の調整ができる発電設備や蓄電池の利用、需要家による節電などによって調整可能な電力リソースのことを指します。

短時間で調整できる能力が取引され、応答が短いものが高単価で取引されます。

③ 卸電力市場 or 相対取引

電力の売買が行われる市場のことを指します。電力は、その性質上、貯蔵が難しく、需要と供給のバランスを常に保つ必要があります。そのため、電力会社は、需要に応じて発電量を調整し、電力の安定供給を実現しています。電力市場は、この需給調整を円滑に行うための仕組みの一つです。日本では、JEPX(日本卸電力取引所)が唯一の卸電力市場になります。ここでは、昼間の安い電力を購入し市場が高くなる時間帯で売却するいわゆる「値差取引」で蓄電所は収益を得ます。

◆ 系統用蓄電所事業 スキーム図



◆ 系統用蓄電所事業 収益構造

